

1. 圏域の概要

(1) 水産業の概要

① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

本圏域は東京湾に面する富津市北部から浦安市に至る範囲で、第2種富津漁港をはじめ第1種7漁港の計8漁港がある。圏域内の漁業協同組合は、現在7組合である。

平成30年には市川市行徳漁業協同組合と南行徳漁業協同組合が合併し市川市漁業協同組合となった。また令和3年には木更津漁業協同組合、木更津市中里漁業協同組合、江川漁業協同組合、久津間漁業協同組合、牛込漁業協同組合の5組合が合併し新木更津市漁業協同組合が設立された。

同じく令和3年に新富津漁業協同組合と富津市下洲漁業協同組合が合併し、新富津漁業協同組合となった。

② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

圏域内の属地陸揚量(平成30年)は7,926トンである。東京湾の静穏な海域を利用したノリ養殖業、アサリ採貝漁業や小型機船底びき網漁業等が行われている。圏域の主要漁業種類は、ノリ類養殖(67%)、採貝(16%)である。また主要魚種は、ノリ類(67%)、貝類(22%)である。

資源管理の取組として、まき網漁業が休漁期間の設定、小型機船底びき網漁業や潜水器漁業が定期休漁日の設定をしている。

つくり育てる漁業の取組として、ヒラメ、マコガレイ、クルマエビの種苗放流を実施している。

③ 水産物の流通・加工の状況

本圏域では、ノリ養殖・採貝藻が盛んであり、一部の海苔加工品については、千葉ブランド水産物として認定されている。東京湾に残された貴重な干潟漁場や前浜で生産される魚介類は、アクアラインを利用して東京や横浜などの大都市へ供給されている。

④ 養殖業の状況

本圏域においては、ノリ養殖が行われている。ノリの養殖は、9月に陸上の種付け施設にて網に胞子を付着させ、水温が下がる10月から4月にかけて海上にノリ網を張って行う。また、一部のノリ網を短期間の育成の後に冷凍保管しておき、12月頃から順次養殖漁場の網と交換することで、漁期を通して良質なノリの生産を可能としている。

生産されたノリは個人もしくは共同で所有する加工施設において乾ノリに加工され、共販を経て流通する。

⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

組合員数は1,085人、漁業経営体は737であり、平成26年度に対して組合員数は16%減、漁業経営体は31%減と大きな減少となっている。

⑥ 水産業の発展のための取組

- ・(公財)千葉県水産振興公社、漁業協同組合において、ヒラメ、マコガレイ、クルマエビの種苗放流を行い資源管理に努めている。
- ・圏域を代表する海苔加工品として「手入れ海苔(焼のり)」、「金田産一番摘みあま海苔(焼海苔)」、「金田産焼ばら乾海苔」が千葉ブランド水産物に認定されている。また、江戸前の代表格である「大佐和漁協江戸前あなご」、千葉北部漁場で漁獲される「三番瀬ホンビノス貝」に加え、船橋港は全国有数のスズキの陸揚量を誇り、一部は「江戸前船橋瞬めすずき」として千葉ブランド水産物に認定されている。
- ・船橋港(国際拠点港湾 千葉港葛南中央地区)は地域の陸揚げ拠点として、製氷貯氷施設の整備に取り組んでいる。
- ・地元の漁業協同組合では東京湾アクアラインの海ほたるPAで、水産物直売所を運営し、水産業の振興に寄与している。圏域内は遠浅の海岸が続き、自然を活かした「潮干狩り」、「すだて」など観光と連携した漁業が営まれている。
- ・県では貧酸素水塊分布予測システムを構築し、各方面に情報提供している。三番瀬漁場の生産力を回復させるため、アオサの除去やアサリ資源増大等を目的とした調査や技術開発を行っている。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

本圏域は、ノリ養殖が盛んであり、富津漁港や市川漁港は、ノリ等を陸揚げする物揚場や船揚場、用地が不足していることから、漁業活動の効率向上や就労環境向上が課題となっている。

また各漁港において施設の老朽化が進行しており、予防保全の考え方に基づいた持続的な長寿命化対策が課題となっている。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

今後、地元自治体や漁業協同組合と協議を進め、集約に向けた合意形成を進めていく。

(2) 圏域設定の考え方

① 圏域タイプ	養殖・採貝藻型	設定理由；主にノリ養殖業、採貝藻漁業が行われ、水産物を計画的又は持続的に生産している。
② 圏域範囲	富津市佐貫漁港～浦安市	設定理由；ノリ養殖業、採貝藻漁業を主要漁業形態とする地域で構成する。
③ 流通拠点漁港	該当無し	設定理由；
④ 生産拠点漁港	富津漁港、金田漁港、市川漁港	設定理由；富津漁港は属地陸揚金額28億円余りの第2種漁港であり、金田漁港は属地陸揚金額2億5千万円の第1種漁港である。市川漁港は東京湾最奥部の数少ない漁港であり、属地陸揚金額3億円以上の第1種漁港である。
⑤ 輸出拠点漁港	該当無し	設定理由；

(令和元年)

圏域の属地陸揚量(トン)	6,558
圏域の総漁港数	8
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	1

圏域の登録漁船隻数(隻)	1,637
圏域内での輸取出扱量(トン)	0

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	富津市 木更津市
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	ノリ ノリ
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量(収穫量)(トン)	1,631 334
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	761 222(今後250以上が見込まれる)

2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

圏域内では、ノリ養殖業、アサリ等採貝漁業が盛んであり、陸揚拠点の富津漁港、金田漁港は本県水産業の重要な役割を担っている。

また、市川漁港は、東京湾奥部での主要漁港であり、隣接する船橋港（千葉港葛南中央地区）と併せノリの生産拠点となっている。

そのため、本圏域では外郭施設や用地整備による漁業時間のロスを解消し、鮮度の保持対策、生産コストの縮減、作業時の安全性の確保に取り組む。

② 養殖生産拠点の形成

富津市地区では、拠点の富津漁港においてノリの共同加工施設を順次整備し令和3年度までに整備済みである。

木更津市地区では必要な取組を今後協議し、進めていく。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

貧酸素水塊や青潮によるへい死、秋冬期の波浪による稚貝の減耗、害敵生物による食害により、アサリの資源量が大きく減少しているため、囲網等による漁業被害を抑制し、生産力維持に努めるとともに東京湾干潟漁場再生方針（仮称）に基づいた干潟漁場の整備に取り組み、統一した手法による継続的なモニタリングを実施することにより、生産力の向上と資源増大を目指す。

また、ヒラメ、マコガレイ、クルマエビの種苗放流と資源管理を行うことにより漁獲量の増加に努め、持続可能な漁業生産を確保し、安定した漁業経営を図る。

② 災害リスクへの対応力強化

圏域内の漁港については既存漁港ストックの老朽化が進行していることから、予防保全の考え方にに基づき、緊急性の高い施設の長寿命化対策を優先的に実施し、高波・高潮、津波時の被災リスクの低減、持続可能な漁港インフラの管理を進める。

また、富津漁港海岸については、漁港漁村の防災・減災対策として、津波高潮対策について漁業協同組合や関係者と合意形成を図る。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「海業」による漁村の活性化

- ・ 漁港の活用促進の支援（海業等の振興（漁業協同組合直営食堂：金田浜っこ等、水産物直売施設：海ほたる、船橋みなとや等、潮干狩り））
- ・ 泊地を利用したナマコの増殖（富津漁港）
- ・ 地域活性化の取組との連携（豊かな自然を生かした交流人口の増加（滞在型観光施設、すだて、カヤック）、遊漁船等）

漁業協同組合等、地元の意見を聞きながら、用地や水域の有効活用について検討し、地域活性化に繋げる。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

- ・生活環境の改善（地元市による定住促進等との連携）

3. 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
富津	流通機能強化	水産流通基盤整備	富津	第2種	
市川	流通機能強化	水産生産基盤整備	市川	第1種	

- ・富津漁港では、ノリ養殖業に適した漁港整備を行うとともに、漁港の生産流通機能を強化し、鮮度保持、コスト縮減を図る。
- ・市川漁港は、生産流通機能を強化し、鮮度保持、コスト縮減を図る。

②養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
富津市	該当なし				
木更津市	該当なし				

- ・富津市地区、木更津市地区の整備事業としては該当なし。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
内湾（千葉北部、盤洲、富津）	資源管理	水産環境整備

- ・内湾地区で増殖場による漁場整備を実施する。

②災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港港湾名	種別	流通拠点
外房・内房	安心安全 予防保全	水産物供給基盤機能保全	富津	第1種	
富津市	安心安全 予防保全	水産物供給基盤機能保全	大貫	第1種	
木更津市	安心安全 予防保全	水産物供給基盤機能保全	金田	第2種	

市川市	安心安全 予防保全	水産物供給基盤機能保全	市川	第1種	
-----	--------------	-------------	----	-----	--

・富津漁港、大貫漁港、金田漁港、市川漁港において、予防保全の考え方にに基づき、補修の緊急度や費用の平準化、縮減に留意しつつ、計画的に保全工事および浚渫を実施し、漁港施設の老朽化対策を行う。

(参考)

地区名	主要対策	事業名
富津漁港海岸	安心安全	農山漁村地域整備交付金（海岸）

・富津漁港を含む漁村や周辺地域の高潮対策として防潮堤の整備を進める。

(3)「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
なし					

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
なし					

4. 環境への配慮事項

圏域内では港湾施設が整備され、その前浜となる遠浅の海岸を利用したノリ養殖業、アサリ採貝漁業が営まれている。

東京湾湾奥部には埋立土砂の用材として深堀された浚渫産地があり、底びき網漁の支障となっている。また、市川漁港の前面に広がる遠浅の海域は「三番瀬」と呼ばれる干潟・浅海域であり、整備にあたっては、環境に配慮しつつ漁港整備を進めていく。

富津漁港の浚渫土については、浅海漁場総合整備事業の覆砂等として有効利用を引き続き行う。

また、県営漁港内の外灯についてLED化を進める。

5. 水産物流通圏域図

別添

6. 当該圏域を含む養殖生産拠点地域図

別添

7. 漁港ごとの役割や機能分担および漁港間での連携の状況を示す資料
別添

8. その他参考となる資料
該当なし